

文部科学省大学間連携共同教育推進事業
**KOSEN発“イノベティブ・ジャパン”プロジェクト
について**



2015年10月27日

事業推進責任者

浅野敬一

(東京工業高等専門学校 一般教育科 教授)

1. プロジェクト全体の目的

高専の新たな教育プログラムを提案

「イノベーション＝社会変革」

を実現する可能性をもった

エンジニアの育成

技術革新だけでなく、
今までと違った新しい価値を創造し、
社会の望ましい変革に貢献できる
エンジニアの育成を目指します。

★ プロジェクトの背景

新たな基幹産業とそれを担うエンジニアの必要性

- 既存産業の海外展開だけでは限界
- 従来 of 延長や改善ではないイノベーションへ

高専制度の成熟化(50年(専攻科10年)を機会に抜本的な見直しも)

- 産業構造の変化に対応したエンジニア育成の必要性(大学との差別化・役割分担の必要性)
- プレゼンスの再構築(社会におけるプレゼンスの低さ、産業界は本当に応援団なのか?)

2. 実施体制等

- 連携校：一関高専、小山高専、長野高専、
沼津高専、和歌山高専、沖縄高専、
東京高専(代表校)
- 協力校：函館高専、八戸高専、福島高専、長岡高専、鈴鹿高専、
石川高専、舞鶴高専、米子高専、宇部高専、阿南高専、
北九州高専、佐世保高専、熊本高専、鹿児島高専
- 協力機関：大学・高専、各地域の自治体・商工会議所等
- 評価機関：日本工学教育協会、八王子商工会議所
- 事業期間：2012年度～2016年度
- 事業推進代表者：古屋一仁(東京高専校長)
- 事業推進責任者：浅野敬一(東京高専一般教育科教授)

3. 主な事業内容

(1)「社会実装教育」の提案と実践

～イノベーション・プロセスを教育に援用し、学生が現実の社会問題やユーザーに対峙しながら、「何を」創り出すかを考える能力を強化できる教育プログラムを構築する～

● 学生研究会(合宿)

9月7日(月)、8日(火):一関高専で開催

学生が「社会実装教育」の趣旨等への理解を深めるとともに、他高専の学生と研究上の議論を交流を行った。

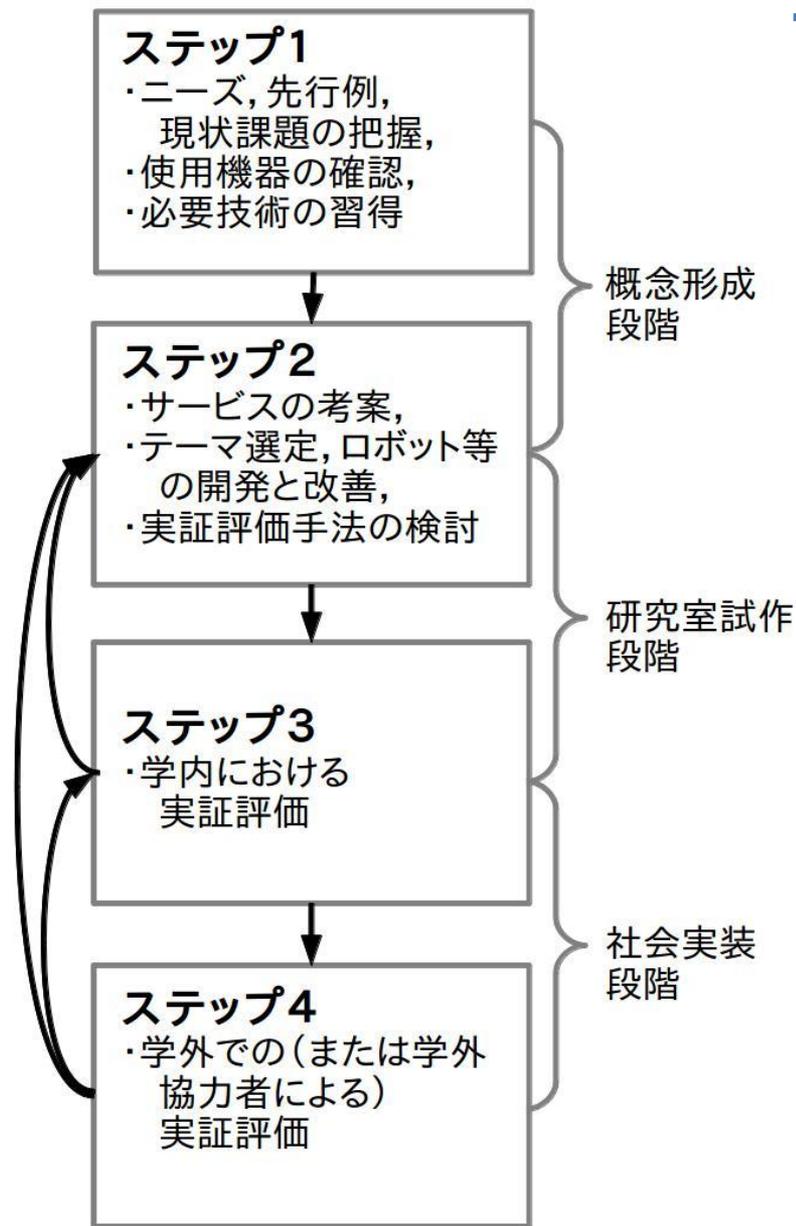
● 教育用SNSを用いた議論

取り組み状況を報告し、問題の解決方法等を参加学生同士でアドバイスする。

● 社会実装教育フォーラム

3月4日(金)、5日(土):東京高専で開催を予定

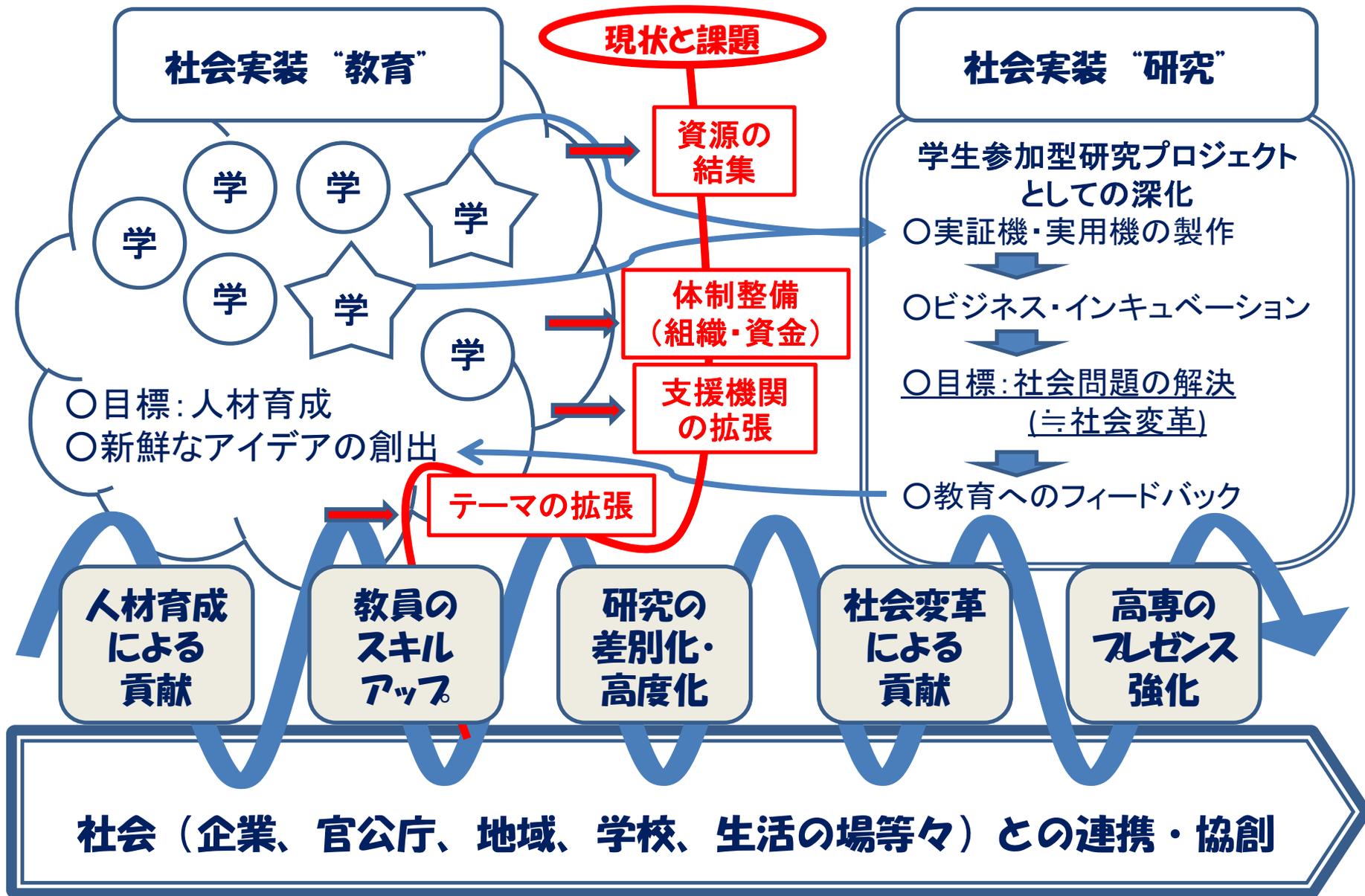
各高専の代表学生によるプレゼンテーション及び「社会実装教育」の改善に向けた学生参加型FDを実施する。



【報告会】

制作物の技術的内容だけでなく、取組全体をプレゼンテーション

「社会実装」を中核概念としたプロジェクトの発展の可能性



(2)「高専研究」の展開

～将来の高専像と新しい教授システムを探求するため、各高専の実態を体系的に整理・分析する～

- 高専教育の実績等のデータ収集
- 各高専や企業へのヒアリング調査
- アンケート調査等の実施



高専研究調査委員会委員一覽

濱中義隆

国立教育政策研究所 高等教育研究部 総括研究官

新谷康浩

横浜国立大学 教育人間科学部 准教授

矢野眞和【委員長】

東京工業高等専門学校 特命教授

東京工業大学 名誉教授

政策研究大学院大学 客員教授

中澤達夫

東京工業高等専門学校 特命教授

長野工業高等専門学校 名誉教授

青木宏之

東京工業高等専門学校 電子工学科 教授

☆「高専卒業生キャリア調査」を2014年度に実施

- 高専の学習経験と卒業後のキャリアとの関係を把握する。
- 調査参加高専：13高専（14キャンパス）
八戸、小山、東京、長岡、沼津、鈴鹿、
和歌山、米子、宇部、阿南、佐世保、
熊本（八代キャンパス、熊本キャンパス）、鹿児島
- 回収率等
実質送付件数：11,904件
回答件数：3,408件（回答率：28.6%）
- 調査協力機関
一般社団法人 輿論科学協会